

普及指導員調査研究報告書

課題名：はなっこりーの安定出荷に向けた作型シミュレーション

農林総合技術センター技術指導室 担当者氏名：重藤 祐司

<活動事例の要旨>

3年間の定点調査結果等を基に、はなっこりーの月別出荷量シミュレーションを行い、安定供給に向けた作付け品種誘導の方向性を示した。

1 普及活動の課題・目標

平成22年、農林総合技術センターは厳寒期の収量性を改善した新系統のはなっこりー（ME、L）を育成し急速に普及したが、品種構成が偏ったことで月別出荷量及び価格の乱高下を招いた。品種・作型誘導による月別出荷量の安定化が課題となっている。

2 普及活動の内容

- (1) 調査研究期間 平成22年9月から平成25年5月
- (2) 調査研究の対象地域・場所
H22：ME 6カ所、L 5カ所
H23：ME 9カ所、L 4カ所
H24：ME 10カ所、L 4カ所
- (3) 調査項目
苗質、摘心日、月別収量 など
- (4) その他
普及指導員と連携して調査圃のデータ収集と取りまとめを実施した。また「はなっこりー生産出荷協議会」により、全農、JA、農業部、園芸作物研究室と情報共有した。

3 普及活動の成果

- (1) 各品種の基準出荷パターンを算出
 - ・3カ年の定点調査結果（ME計25カ所、L計13カ所）のデータを平均し、基準となる出荷パターンを算出した（表1）。
 - ・既存品種は過去の共販出荷量から算出した。

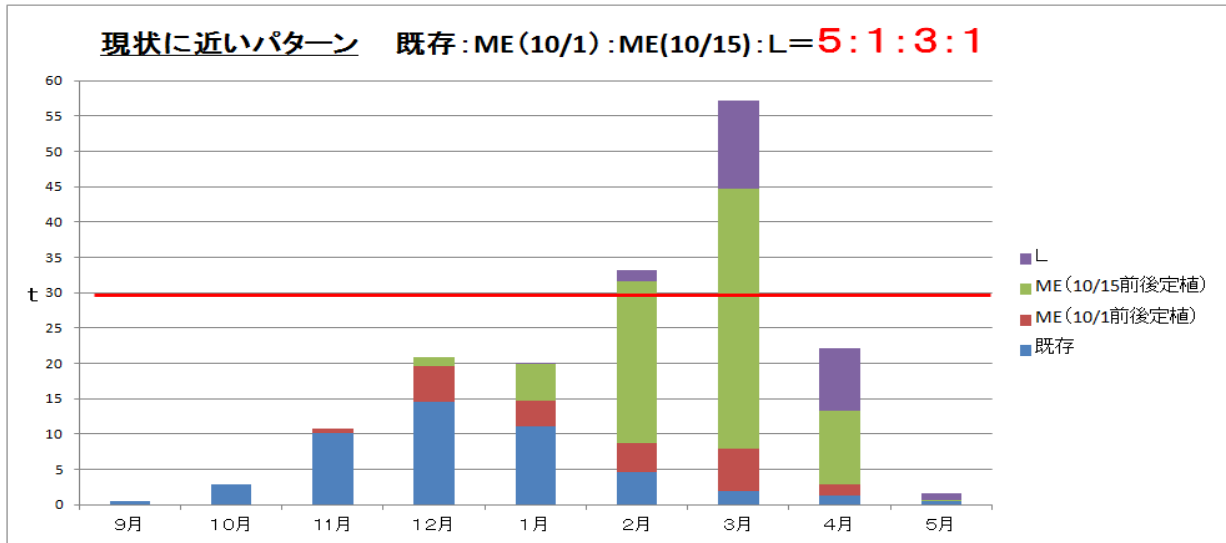
表1 定点データから算出した基準データ：10aあたり出荷量(kg)

| 品種・系統 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 計 |
|---------------|-----|------|-------|-------|-------|------|------|------|-----|-------|
| 既存 | 5.8 | 34.0 | 118.4 | 170.7 | 129.0 | 54.2 | 22.4 | 15.2 | 6.7 | 700 |
| ME(10/1前後定植) | | | 35 | 297 | 216 | 242 | 356 | 91 | 0 | 1,236 |
| ME(10/15前後定植) | | | 0 | 22 | 101 | 445 | 715 | 205 | 1 | 1,488 |
| L | | | 0 | 0 | 2 | 98 | 736 | 515 | 56 | 1,408 |

(2) 品種・作型構成の改善

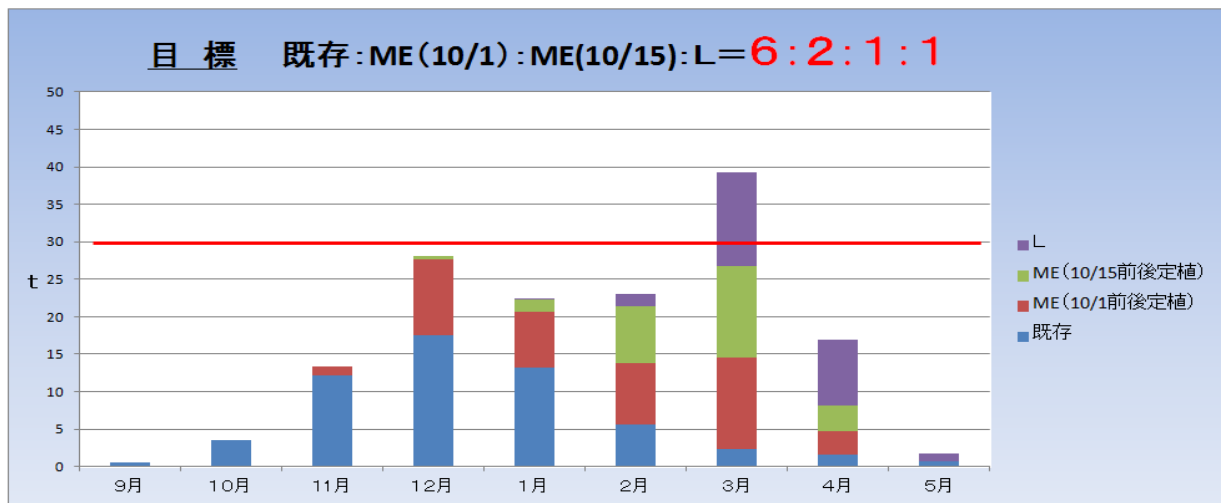
- ・表1の出荷パターンを利用して、品種・系統の様々な作付け比率を想定した出荷シミュレーションを行った。※図表省略
- ・関係者と協議し、現状の作付け比率に対して今後誘導していく作付け比率を決定した（図1）。
- ・誘導していく作付け比率は以下のとおり

既存品種：ME（10/1定植）：ME（10/15定植）：L＝ 6：2：1：1



- ◇ 既存の作付比率が**50%**にまで低下することで、年内出荷量が大幅に減少
- ◇ **ME(10/15前後定植)の作付比率が30%**と高くなることで、**3月の出荷量激増**
※H24年度は気象条件も影響

作付誘導



- ◇ **既存の作付比率を60%まで戻すとともに、ME(10/1前後定植)を20%にすること**で月別出荷量は比較的安定する。

図1 現状 (H25) の作付け比率による出荷シミュレーションと今後誘導する作付け比率

4 今後の普及活動に向けて

- ・ME(10/1前後定植)は気象によっては凍害が発生しやすいので沿岸部中心に作付誘導する。
- ・また、早植えにより太い規格外も発生しやすくなる恐れがあるので、第一次側枝のピンチで対応する。